

ISSN 2187-6177

日本語音声コミュニケーション 10

Japanese Speech Communication 10

2022. 3



日本語音声コミュニケーション学会
Society of Japanese Speech Communication

製作 ひつじ書房

目次

発刊のことば

和文

論文

日本語母語話者と日本語学習者の終助詞「ね」のイントネーション産出

鄭穎1

論文

日中母語話者の参与形態均衡性の異なり

一社内ウェブミーティングにおける同調アフォーダンスの量的比較に基づく考察一

楊一林21

研究ノート

政治家の「非流暢な発話」と映像編集

宿利由希子41

著者紹介

雑誌の案内(投稿の方法、連絡先)

編集後記

発刊のことば

日本語の音声コミュニケーションとその教育を専門に考える研究会「日本語音声コミュニケーション教育研究会」を、私たちが日本語教育学会のテーマ研究会として作ったのが2006年の4月です。7年目(2013年)に会誌を発刊し、11年目(2017年)に、日本語教育学会とは独立した学会になりました。それに伴い、研究会誌も第6号から学会誌になりました。

『日本語音声コミュニケーション』(英語名 Japanese Speech Communication)は、マルチメディアを駆使したオンラインジャーナルです。紙媒体の雑誌や本と違って、動画そのもの、音声そのものを掲載することができ、掲載されたものは世界じゅうで視聴されます。文字では書き表せないような、ちょっとした「日本的」な仕草でも、日本語を発音している被験者の口の中を撮ったMRI動画でも、日本語の教室の様子でも、世界に向けて発表することができます。

日本語の音声コミュニケーションとその教育に関する私たちの理解をさらに深め、研究を活性化していくために、本誌をご活用下さいましたら幸甚です。

2019年 3月吉日

「日本語音声コミュニケーション学会」代表幹事
定延利之

著者紹介

鄭穎 (ていえい)

武蔵野大学言語文化研究科博士後期課程大学院生

主な研究分野：日本語教育、第二言語習得

Ying ZHENG

Graduate student at Doctoral Program in Language and Culture, Musashino University, Japan.

Main topics of research: Japanese language teaching, Second-language acquisition.

楊一林 (よういちりん)

津田駒工業株式会社講師／金沢大学大学院人間社会環境研究科リサーチアシスタント

主な研究テーマ：マルチモーダルコミュニケーション、中国語教育

主な論文：「マルチモーダルな観点から見た日中ビジネス場面の同調行動の異なり」『日本語音声コミュニケーション』8号(日本語音声コミュニケーション学会、2020)、「協働と観賞－日中多人数インタラクションに見られる多様な均衡性－」『人間社会環境研究』42号(金沢大学大学院人間社会環境研究科、2021)

Yilin YANG, Ph D.

Lecturer, TSUDAKOMA Corp., Japan. / Researcher Assistant, Kanazawa University, Japan.

Main topics of research: Multimodal Communication, Chinese as second language

Main publications: Differences in conformity behavior between Japanese and Chinese business situations from a multimodal perspective. In *Japanese Speech Communication*, 8 (Society of Japanese Speech Communication, 2020). Collaboration and Spectatorship: Diverse Equilibria in Sino-Japanese Multiparty Interaction. In *Human and Socio-Environmental Studies*, 42 (Graduate School of Human and Socio-Environmental Studies Kanazawa University, 2021)

宿利由希子(しゅくりゆきこ)

東北大学高度教養教育・学生支援機構講師

主な研究分野：日本語教育、社会言語学、コミュニケーション論

メールアドレス：shu9ri@gmail.com

Yukiko SHUKURI

Institute for Excellence in Higher Education, Tohoku University

Main topics of research: Japanese language pedagogy, sociolinguistics, Communication

E-mail address: shu9ri@gmail.com

雑誌の案内(投稿の方法, 連絡先)

『日本語音声コミュニケーション』(Japanese Speech Communication)は、日本語音声コミュニケーション学会の会員であれば、どなたでも投稿できます。(但し、会員以外からの投稿も編集委員会の判断で認めることがあります。)

研究会の「入会案内」については、下記の web ページをご参照下さい。

<https://sites.google.com/view/nihononsei/ホーム/入会案内>

「投稿要領」と「編集委員会会則」については、下記の web ページをご参照下さい。

<https://sites.google.com/view/nihononsei/ホーム/電子雑誌>

編集委員会のメンバーについては、下記の web ページをご参照下さい。

<https://sites.google.com/view/nihononsei/ホーム/概要>

その他のお問い合わせは、下記までお願い致します。

松田真希子(まつだ まきこ)(代表理事)

mts[at]staff.kanazawa-u.ac.jp ([at]の部分を@に変えてご送信下さい。)

〒920-1192 金沢市角間町 金沢大学融合研究域

編集後記

この感染症がこんなに広がり、長引くとは思っていませんでした。
いいこともあります。研究会や学会での発表が気軽になりました。

地球は、一つです。何十万年も前、アフリカに人類が生まれ、ユーラシア大陸を経て日本に達し、ベーリング海峡を渡って、南北アメリカに定住したといえます。

ミャンマーでも中国でも、アフガニスタン、シリアでも大規模な迫害が起きています。そして、ウクライナからは多くの人たちが西へと逃れ、日本政府は受け入れを決断しました。私は、日本語学校の教師ですから、千客万来です。不謹慎な考え方もかもしれませんが、本心です。

ただ、気になるのが、多くの外国人が、難民申請をなかなか認定されずにいるらしいことです。今回の政府の決断と日頃の態度との間に矛盾や不合理はないのでしょうか。もしあるとしたなら、日頃の態度の方を見直すべきだと思います。

馬場良二(査読委員長)



日本語音声コミュニケーション学会
Society of Japanese Speech Communication

日本語音声コミュニケーション 10

Japanese Speech Communication 10

インタラクティブ PDF 版

発行 2022年3月31日 初版1刷
著者 日本語音声コミュニケーション学会
<https://sites.google.com/view/nihononsei/>
発行・製作 株式会社 ひつじ書房
〒112-0011 東京都文京区千石 2-1-2 大和ビル 2F
Tel.03-5319-4916 Fax.03-5319-4917
郵便振替 00120-8-142852
toiawase@hituzi.co.jp <https://www.hituzi.co.jp/>

ISSN 2187-6177